

田村市石森地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 収量向上に向けた排水対策技術導入
- 害虫防除の薬剤の検討

2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】
(R3) 水稲:7.5 ha、大豆:5.0ha⇒(R6) 水稲:8.1ha,大豆:5.3ha
- 石森地区の中心的な担い手として、農地を借り受け、水稲・大豆の生産、作業受託を行っている。R4産より田村市外でも大豆栽培を開始した。
- 市内の大豆の刈取作業～乾燥調製受託も行っている。(R3:3.7ha⇒R6:4.8ha)



3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<ほ場の傾斜化と明渠による排水対策の実施>

- 出芽期の湿害を回避するため、レーザーレベラーを使用した圃場の傾斜化（1,000分の5）と明渠を設置して排水改善を図った。



レーザーレベラー作業の様子（6月12日）

<効果的な害虫対策の検討>

- 被害の大きいカメムシ類対策として、「アミスタートレボンSE」での薬剤防除を追加で実施した。（8月25日）1回

4 取組成果

<出芽時の湿害回避>

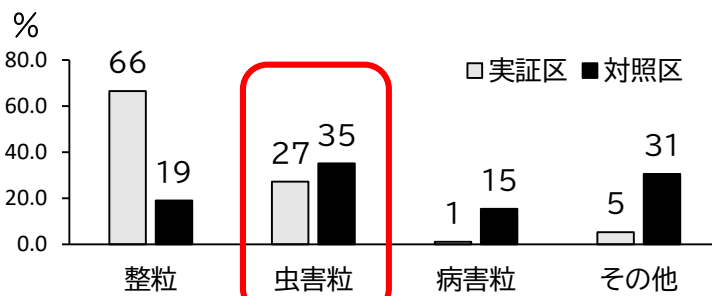
- ほ場の傾斜化と額縁明渠の設置により排水性が向上し、実証区の出芽期は対照区より2日早く、出芽揃いも良かった。



実証区(7/10)

<カメムシ類等の被害粒の減少>

- 「アミスタートレボンSE」の追加散布を行った実証区ではカメムシ類等の虫害粒が少なかった。



5 課題（7年度のポイント）

- 実証ほの実刈単収は106kg/10a（R5比94%）と昨年よりやや低かった。生育量や子実の肥大が不足していたことから、地力増進のため緑肥やたい肥等による土づくりについて試験を検討する。
- 実証区以外のほ場では、アレチウリにより収穫が皆無となったほ場があったため、中耕培土や除草剤の体系使用等の雑草防除対策を検討する。